

第2回全国都市緑化くまもとフェア基本計画検討委員会 議事録

【日 時】	令和元年（2019年）8月28日（水）14:00～		
【場 所】	熊本市役所 議会棟2階 予算決算委員会室		
【出席委員】	東京農業大学	名誉教授	蓑茂 壽太郎
	筑波大学 芸術専攻 環境デザイン領域	教授	藤田 直子
	熊本商工会議所	会頭	久我 彰登
	熊本経済同友会	代表幹事	甲斐 隆博
	熊本市中心商店街等連合協議会	会長	河島 一夫
	（公社）熊本観光連盟	会長	矢田 素史
	（一社）日本旅行業協会（JATA）	委員長	松田 秀一
	九州支部熊本県地区委員会	委員	岡村 政志
	くまもとお城まつり運営委員会	会長	村上 昭光
	熊本市花き振興協議会	会長	吉村 昌洋
	（一社）熊本市造園建設業協会	会長	馬場 敬子
	大江小学校	校長	桑原 たか子
	公募委員		
	広報・演出アドバイザー		小山 薫堂

【議事概要】

1. 開会
2. 議題
3. 議題
 - (1) 前回の振り返りについて
 - (2) 開催テーマ、シンボルマーク等について
 - (3) メイン会場の事業内容（イメージ）等について
 - (4) 緑化推進事業（NEO GREEN PROJECT）について
 - (5) その他

大西市長 改めまして皆さんこんにちは。熊本市長の大西でございます。本日は第2回の全国都市緑化熊本フェア基本計画検討委員会の開催をしまして、大変お忙しい中、また雨の中ですね、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

また、蓑茂会長をはじめ、委員の皆様方本当に色々なご経験ご見識をお持ちの方ばかりでいらっしゃいますので、ぜひ、この緑化フェアの基本計画にまたいろいろとアドバイスを頂ければ、幸いに存じているところでございます。それからご報告がございませうけれども、今回のフェアにおける広報、演出面でのアドバイザーということで、放送作家として様々な分野でご活躍であります熊本ご出身の小山薫堂さんにご就任を頂きました。アドバイザーとしてのご経験も豊富な小山さんは、くまモンの生みの親ということでもあるわけでありませうけれども、いろいろなアイデアもお持ちであるという事でありませうし、今日は少し遅れているという事でありませうけれども、ご本人がお見えになれるということでございますので皆様方にご報告をさせていただきたいと思っております。また前回の検討委員会でご説明をさせて頂きました、他の市町村との連携ですね、これ非常に重要だと思っておりますが、お声掛けをいたしました県内の45市町村から当フェアへの参画についてご賛同を頂いたという事でございまして、まさに、オール熊本の体制で、この新しい時代の緑化フェアで全国に向けて熊本の魅力を発信し、また熊本の復興をアピールする大きなイベントとして、大きな契機になるのではないかなというふうに考えているところでございます。今回の第2回目の検討委員会では、開催テーマそれから愛称、またシンボルマークのほか、各メイン会場の事業計画等について、それぞれご議論をいただきたいというふうに考えております。限られた時間ではございませうけれども、どうか委員の皆様方におかれましては、忌憚りの無

いご意見等を賜りますようお願い申し上げます、冒頭にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

(事務局) ありがとうございます。なお、大西市長におかれましては、公務の都合上ここで退席とさせていただきます。

続きまして今回委員に変更がございましたので、ここでご報告させていただきます。熊本市中心商店街等連合協議会会長におかれましては、安田次郎様から河島一夫様に変更となっております。河島会長よろしくお願い致します。

(河島委員) はい、今しがた言われた通りです。河島と申します。よろしくお願い致します。

(事務局) また、本日は先の市長あいさつにもございました通り、広報・演出アドバイザーにご就任頂きました、小山薫堂様におかれましても、後ほどご到着され次第出席頂くことになっておりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

～配布資料の説明～

(菘茂会長) 皆さんこんにちは。それではさっそく会議に入りたいと思います。その前に傍聴の方の確認をしたいと思います。事務局いかがでございますでしょうか。

(事務局) 事務局でございます。傍聴の方は本日1名でございます。傍聴される方におかれましては、お手元の傍聴される方への注意事項に記載しておりますように、会議中は静粛にして頂きますようよろしくお願い致します。以上でございます。

(菘茂会長) それでは、議事次第にのっとりまして会議を進めていきたいと思います。大変お忙しい方ばかりでございますので、時間厳守で進めたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。最初に、前回の会議の振り返りという事を資料1に基づいて説明をお願い致します。

(事務局) ～資料1の説明～

(菘茂会長) はい、ありがとうございます。私の方から補足しますと、前は全国都市緑化フェアというのは、だいたいどういうものかという話を一つ議論いたしました。それから熊本は2回目の都市緑化フェアをやるので、その40年ぐらいの時代差というものをごどういう風に考えて基本構想を立てたかという話をさせていただきました。それから今日のメインになろうかと思えますけれども、開催テーマやあるいはシンボルマーク等についてはどういった決め方をしようかなという素材を出して頂きました。それに沿って、先ほどの小山さんの話も出てきたわけでございます。それから、今回の緑化フェアは2巡目の、東京や大阪は2巡やっていますけれども、地方都市としては本当に初めての2巡目ですので、従来のものをそのまま踏襲するのではなくて新しいものを発信する必要があるだろうと、その意味では一過性のお祭りにするのではなくて、前と後ろをきちんとやるためのNEO GREEN PROJECTというのを熊本では発想したと。それについて、今、ご紹介のあったようなご意見を頂いたということでございます。何か、ご意見等ございませんでしょうか。よろしいですか。村上さんからご指摘頂いた調達の話もフォローアップをするという事です。

それでは、これはご承認頂いたということでよろしいでしょうか。

(委員全員) はい。

(菘茂会長) はい、ありがとうございます。

それでは、2つ目の説明をお願いします。開催テーマ、シンボルマーク等について。

(事務局) ～資料2の説明～

(菘茂会長) はい、わかりました。それでは、前半の部分ですね。小山さんがおいでになるまでの間、小山さんを選んだということはこれでいいと思いますけれども、イメージキャラクターのくまモン、それからシンボルマークの制作の方法ですね、これについて何かご意見がありましたら賜りたいと思います。

(久我委員) 商工会議所の久我と申します。意見ではないんですが、質問を申し上げたいんですが、地元デザイナーによる公募の参加資格要件のところ②で、主としてデザインやイラスト作成を生業としていることという風にございますけれども、私どもの企業の会員の中にも、デザインを生業にしているところもあれば、各企業の中でデザインを担当して、そういう職責にある者もいるわけですね。この場合のくくりというのはどこまで、例えばそのあくまでデザインの会社を自分でやっているところに留まるの

か、それとも、企業の中でデザイン部門を担当してやっているところまで含めて考えるのか。私としては広く定義した方がいいのではないかなと思うんですけども。そのお尋ねです。

(菘茂会長) 事務局いかがですか。

(事務局) ご意見ありがとうございます。事務局としましては、偏った公募ではなくて広く門戸を開いて応募して頂きたいという風に考えておりました、もちろんご自身が立ち上げられている事務所とかそういった方も可能ですし、企業に法人に所属しておられるデザインの方も会社の同意が得られればOKということにさせて頂きたいと考えております。

(菘茂会長) 『生業としている人』という表現を考えなくちゃいけないね。

(事務局) 色々な形が考えられるかと思うんですけども、そういった法人に所属している中でデザイナーの方や個人で起業されている方、他に、例えば教室などを開かれている方、それで生計を立てられている方もいらっしゃると思いますので、なるだけ制限というものは広くしてですね、かなり多くの応募を頂きたいという風にこちらとしては考えているところでございます。

(菘茂会長) 公募要件で出すのでしょうから、その表現を考えなくちゃということ。念をおしているわけ。幅広く応募してもらえるようにするという事です。他には。はいどうぞ。

(岡村委員) お城まつりの岡村と申します。

質問と意見というところなんです、まずはこのシンボルマークの公募についてなんです、もう純粋にこの採用されたデザイナーさんはあくまでこのシンボルマークだけに携わるのかどうかというところが、1点確認させていただきたいというところなんです。

(事務局) 事務局です。こちらの公募の方で選ばれましたデザイナーさんにつきましては、今後パンフレットとかチラシ、一体となったチラシというものが効果的かなと事務局としても考えておりました、まだ決定はしておりませんが、そういった制作にも携わって頂きたいという風には考えているところでございます。

(岡村委員) ありがとうございます。まさにその意見を話したかったですけれども、どうしてもこういう大きなイベントになると、その案件ごとにコンペが開かれて、まったく違うデザイナーが温度感のズレがあったりとかでバラバラとイメージが統一されていないような、リーフレットであったりポスターでも見かけますので、できれば核になるシンボルマークが核になってくると思いますので、その辺のしっかりとイベントの意義であるとかそういったものをしっかり理解した方に、今回は小山薫堂さんにアドバイザーとして入っては頂きますけれども、実際デザインとかにアドバイスとは頂けても、いじったりとかはされたいと思いますので、その辺をアートディレクションというかそういうポジショニングみたいなものを与えてというか、そういうことまで出来るとなると、よりモチベーション高く公募に参加して頂けるんじゃないかなというふうに思いましたので意見とさせて頂きました。

(菘茂会長) はい、大変大事なポイントだと思いますね。デザインコードがバラバラになるとだめだから。十分参考にして下さい。

(事務局) ありがとうございます。参考にさせて頂きます。

(菘茂会長) 藤田委員どうぞ。

(藤田委員) はい、岡村さんのご意見と関連するんですけども、資料2-1の左下の破線で囲ってあるところなんですけれども、このフェア専門のイラスト作成にあたってはプロのデザイナーも関与してくるということですよ。まず一つは「フェア専用のイラスト」というのは何を指すのかという事。2つ目はプロのデザイナーというのは、小山さんを指しているのか、それともまた小山さんでもなくて、このシンボルマークを作成する方でもなくて、また、別の第三者のプロのデザイナーというのがこれに当たるのか、これは何を指しているのかという2点教えて下さい。

(事務局) はい、事務局でございます。こちらのプロのデザイナーと2番のイメージキャラクターの下に書いてある部分でありますよね。こちらにつきましては、小山さんというわけではなく、地元のクリエイターの方々にお手伝いを頂いて、何かしらワークショップ的なことができないかという風なところで考えているところでございます。

- (藤田委員) ありがとうございます。ということは、熊本在住のプロのデザイナーと小山さんとシンボルマークを作った人、このプロ同士の意思疎通というか統一性を持たせることの合意だとか、そういうところをどうするのかということも非常に重要だと思うんですけども、そういう互いの位置づけであるとか、関係性であるとか、同じ統一感を持たせるというところの調整は簡単なようで、皆さんプロですから簡単でもないのかなという風に少し心配するんですけども、その辺りはどういうふうを考えていられるのでしょうか。
- (事務局) すみません。今、こちらの部分のプロのデザイナー。そちらにつきましては、デザイナー志望する、または絵の好きなお子様方と地元のクリエイターの方々との交流といいますか、プロの仕事を学ぶではないですけども、そういったところで子どもさんたちと地元のクリエイターの方々が参加して学んで頂くようなワークショップができないかと、そこでくまモンの装飾、フェア専用のくまモンなどを作り上げていけないかというところで、今検討しているところでございます。
- (藤田委員) ありがとうございます。ということは、そうやってくまモンに何か装飾したものが実際それが何かキャラクターになって出ていくわけですよね。で、そのデザインに対して小山さんだとか他の例えばシンボルマークを作った方だとか、そういう人たちとのすり合わせというのはおかしいかもしれないですけども、フェア全体の共通した、統一したイメージであるとか、そういうものはどういうふう担保するんですかという質問です。
- (事務局) それにつきましては、まだ決定しておりませんが、ご意見を頂きながら、これにつきましてはまだ検討中でございますので、そこは市民投票など幅広く市民に参加して頂くために投票するとか、そういうことも考えておりますので、そこはまたこれからご意見頂きながら設定していきたいという風に考えております。
- (藤田委員) ありがとうございます。そこに、市民投票が入ってくるのはおかしいと思うので、そういうところ気を付けて進めていってください。
- (事務局) はい、ありがとうございます。
- (菺茂会長) 多分、プロのデザイナーと言っているのは、ワークショップのファシリテーターとして、そういう人に入ってもらいたいという事でしょ？
- (事務局) はい、そういうことでございます。
- (菺茂会長) よく理解して進行させないと、辻褄が合わなくなるからね。よろしく願いします。他にはございませんでしょうか。他のこれまでのフェアのシンボルマークの説明はいいのかな。こういうのがありましたというだけ？
- (事務局) はい。参考として載せさせて頂いております。
- (菺茂会長) 他にはございませんでしょうか。2-1ページについて。
- (松田委員) 今度の緑化フェアはできれば、たくさんの外国人のお客様にも来てもらいたいなと思っておりまして、今、この時代なんでロゴマークもグローバルに外国人にも一目でわかるような、そんなデザインにして頂くとは非常にいいかなと思いますので、是非ご検討頂きたいと思います。この「ひろしま はなのわ」とありますけれども、外国人には分からないと思いますので、その下にちょっとキャッチーな英語のロゴを入れるとか、そういうのが外国人の人も来やすいと思いますので是非ご検討の方をよろしく願いします。
- (事務局) はい、ありがとうございます。
- (菺茂会長) 多分、以前やった緑化フェアというのは、都市に緑をとにかく入れるという、そういう運動だったと思うんですけども、今回は快適な都市で人の流れができて経済が潤うということが非常に大事なので、そういった意味では今おっしゃったグローバルで分かりやすいものを作るというのが大事なポイントだと思いますので、よろしく反映させるようにして下さい。小山さんの到着がちょっと遅れているようでございますから、次の2-2については、ご本人から話してもらった方が分かりやすいと思いますので、ちょっとペンディングにさせて頂いて到着後にお聞きすることにして、その次の議題を先に進めさせて頂きたいと思いますけれどもよろしいでしょうか。ご理解ありがとうございます。それでは次の資料3について説明をしてください。
- (事務局) ~資料3の説明~

- (菘茂会長) はい、ありがとうございます。いくつか内容があるかと思えます。まずは、3つの会場のイメージづくりをやってきましたということですね。特に地域の方との協働というのを大事にしていますので、そこのいろいろな打ち合わせをやらせてもらったようでございます。その結果、可能性があることで主にこんな案が出てきているということでもあります。2つ目には、市民意見、オープンハウスを設けて市民意見を集めてきましたと。139サンプルなんですけれども予想通りというのか、なかなか知られてなかったということですね。ですから、まさに今日お願いする情報発信が重要だということになるかと思えます。それから3つ目は、開催期間について、こちらはなかなかはっきりとケース3でいきたいという具体的な提案がありました。以上についてご意見を賜りたいと思えます。どこからでも結構でございます。
- (甲斐委員) 言葉の問題なんですけれども、「まち山」という言葉はあるんですか。「里山」だったらイメージが湧くけれども。
- (事務局) 「まち山」という言葉につきましては、造語というか、今回くまもとフェアで新規に作ったというところでございます。昨年度基本構想を策定する際に委員会の中で、市街地の中にある山ということで、まち山としてはどうかというご意見もありましたことから、このようなネーミングとさせていただきます。
- (藤田委員) いいですか。
- (菘茂会長) はい、どうぞ、提案者かな。
- (藤田委員) はい、私の方から補足をさせていただきます。「まち山」という言葉は確かに聞きなれない造語です。一方で「里山」というのは認知度もあってどういうものかということも、みなさんイメージがつくようになってきました。「里山」には定義があって、それと立田山というのは少し様相が異なるというところがあります。この都市緑化フェアということもあって「里山」というと、どうしても中山間地であるとか、そちらの方の山と里というところがイメージされますので、あえて「まち山」という名前を付けて立田山をそういう新たな価値を持った熊本市、政令市の中にある貴重な自然資源が豊かな場所というふうな印象をつけていきたいということで、あえて、最初は事務局としても「里山エリア」という名前がついていたんですけれども、そちらを提案して「まち山」に変更したという経緯がございます。ただ、今ご意見を頂いたように、これはいきなり「まち山です」と、どんと名前だけを出してもその名付けた意味というかメッセージというのが、そのままでは伝わらない、伝わりにくいということも明らかになりましたので、これはまち山、そして立田山を会場にするということに込めたメッセージというものをきちんと発信をしていく必要があるということも言えたなというふうに思います。その辺りよろしく願います。
- (甲斐委員) それがいいと思いますよ。実際暮らしている人間からするならば、立田山はまち山じゃないから。立田山エリアにした方がよっぽどいいんですよ。
- (事務局) エリア設定につきましては、一度事務局の方でもう一度検討させていただきます。
- (菘茂会長) 熊本は他の都市と比較しますと、昭和の初めに風致地区をいっぱい指定しましたよね。それが非常に効いているんですね。結果として立田山みたいなものがポカーンと都市の中であるんですね。これは案外、熊本の人はそのありがたさが気づいていないんじゃないかということで、今、甲斐委員がおっしゃったみたいに、本当に街の中なので立田山という一つのエリアなのだよという事を、もっともっと顕在化させようというそういうきっかけに今回の緑化フェアがなったらいいなという思いもあるんじゃないかと思っております。今の甲斐委員が本当の市民の感覚だと思いますので、そこの展開の仕方を良く考えてもらいたいと思えます。
- (甲斐委員) 文化的には非常に貴重な場所なんですけれどもね。
- (菘茂会長) そうですね。漱石だとかみんな親しんだらうから。そういったことも含めてやって下さい。
- (都市建設局長) 貴重なご意見ありがとうございます。街なかエリア、水辺エリア、まち山エリアというふうな3つに分けて、例えば街なかエリアだったら桜町、花畑というそういう地名のエリアが指定されておりまして、水辺エリアでしたら、水前寺、広木とかに

なって、まち山に行ったらいきなりお祭り広場エリアだとかですね、立田山のゾーニングのエリアになっているという、ちょっとトーンも違いますので、立田山というのが確かに入っていないというのも事実でございますので、持ち帰ってこのエリア設定については検討させていただきます。

(菘茂会長) 他には、はい、どうぞ。

(甲斐委員) 街なかエリアの中の花畑広場というのがどこかという特定がされていないんですけども、どこになるんですか。花畑公園とか辛島公園とか熊本城ホールとか、シンボルプロムナードというのはイメージできるんですけども、花畑広場というのはどこですか。

(事務局) はい、事務局でございます。現在の辛島公園の北側に、仮称花畑広場として毎週土日イベントが行われているところでございます。

(甲斐委員) 分かりました。ありがとうございます。

(菘茂会長) あれは、まだ仮称だね。

(都市建設局長) まだ、条例上、仮称であります。緑化フェアの時には取れていると思います。

(菘茂会長) はい。他には、どうぞ。

(岡村委員) 意見というほどのものではないかもしれないんですけども、今年開催された松本に視察に行かせて頂いたときに、もちろん全くロケーションは違うので、あれなのですが、お花の美しさとかそういうのはあったんですけども、よりそれを際立たせていたのが、やはりアルプスの背景があったところが、非常に信州は美しかったなというふうに感じました。もちろん、お花でも十分熊本らしさとかそういう演出はできると思うんですけども、やはりより一層ビジュアルでバツと、特に SNS とかを考えた時に、お花の向こうに写っているロケーションみたいなものというのが、県らしさみたいなのが、お花の説明を SNS に書く人はいないと思うので、「これ熊本でやっているんだな」みたいなものがなかなかわかりづらいと思うんですけども、信州の場合は特に空港のすぐ横ということで、飛行機の離発着のタイミングでみんな、写真を待ち構えていてですね、お花畑の向こうにアルプスがあって、飛行機が飛び立っていく写真を皆さん一生懸命撮ろうと思って、あまり松本空港飛行機飛ばないものですから、飛ぶ時間に一生懸命皆さん三脚立てて待ってらっしゃったんですよ。そういう熊本らしさみたいなものをビジュアルでも見せて、それが自然と拡散していくような、印象を作っていくことが大事かなと思いますので。そう考えたときに、熊本で何ができるかとなったときには、やはり熊本城をどう活かしていくのかというのが一番の大事な演出になるのではないかなと思いますので、もうあと何年後なので「なにになに映え」みたいなものが流行っているかは置いておいて、ただいづれにしても写真を撮ってというのは、いづれにしても旅行先でされるものなので、何かそういう写真スポットみたいなものを、よりこの街なかエリア、特に熊本城を背景にした部分で少し意識して頂いて、演出して頂くといいかなというふうに思いました。あと、さっきちょっとアクセスの話もありましたけれども、水辺エリア、まち山エリアに対する誘導の仕方というのはどうされるのか。松本に行かせて頂いた時に、駅からのシャトルバスというのは結構出ていて、常時、駅前に係員の方がいらっちゃって、誘導されていたというのがあったんですけども、これを、メイン会場の街なかエリアだとバスターミナルを降りてすぐなので、なんとなくわかるかなと思うんですけども、水辺エリア、まち山エリアにどう誘導していくのかなというところですね、アクセスをどうされるのかというところを一点確認させて頂きたいと思います。その上で、今議題に上がっていたまち山エリアですけども、非常に我々にとって身近でありながらも、なかなか行く機会が正直なところなかったりもあって、こういうところでキャンプみたいなものが、日頃なかなかできないんですけども、そういう熊本の街なかでキャンプができる、実は9月に金峰山のちょっと今使えなくなっていますけれども、少年自然の家で「手ぶらでキャンプ」というイベントを西区の方で実施されるんですけども、2日間もう既に定員いっぱいキャンセル待ちさえできないような状態になっているというのを伺っております。非常に身近な所で非日常体験をするというのが、なかなかできない機会ですので、立田山で泊まるからこそ見える、日中ハイキングとかで行かれる方はいらっしゃると思うんですけども、なか

なかその朝からの景色であったり、夜そこで見上げる星空とかをなかなか見る機会がないと思いますので、そういう泊まるキャンプみたいなことが実際にできるというふうなふうに思います。グランピングとかそういうのができれば、より観光客、外から来た方達もそこに泊まるみたいなことを、より緑化フェアを体験して頂ける、長い時間体験して頂けるようなことになるかなというふうに思います。それで、トレッキングというには、正直、トレッキングと打ち出すには立田山は弱いかと思いますので、ハイキングとかですね、ただトレイルランは今ニーズは高まっております。わざわざトレイルランの大会に出るために県外へ行かれたりするニーズも非常に高まっておりますので、何か緑化フェアとスポーツみたいなものを組み合わせた演出というのが、他のところでやられているのか分からないですけども、そういうことをやることによってより話題性も広がっていくかなというふうに思いました。すみません、長くなりましたけれども以上です。

(菺茂会長)

3点あったですね。よろしくをお願いします。

(事務局)

はい、ご意見ありがとうございます。まず一つ目フォトスポット設置につきましては、ご意見の通りでございます。やはり写真、見栄えがするようなところを設定したいというふうに考えてございます。シンボルプロムナードにおきましてもちょうど熊本城が見える視点場というものもございますので、その辺等をご紹介していければというふうに思っております。2点目は交通の輸送の問題、誘導の問題でございます。水辺エリア、江津湖公園につきましては市電がございまして、この市電を是非皆さんに使って移動してもらいたいという風に考えております。そのためには、市電の中の仕掛けみたいなものも合わせて検討できればという風に思っております。ただ、課題となりますのが、立田山への人の輸送だという風に考えております。バスが走ってございまして、JRもございまして、電鉄もございまして、やはり便数が少ないというのと、ちょっと離れているというのが懸念されますので、現在考えてございまして、他のフェアではシャトルバスを走らせているところがございまして、例えば環境に配慮しましたEVバスであったり、そのようなところを検討していければという風に思っております。また、キャンプでございまして、立田山のキャンプでございまして、最近立田山ではイノシシの問題もあっているのが事実ですので、イノシシの対策等も合わせて必要ではございますが、子ども達に専門家の方の意見も聞きながら、今回のフェアは熊本地震もキーワードとなりますので、防災の観点でのキャンプでございまして、立田山の自然観察を含めたキャンプであったり、その辺の取り組みは専門家の方のアドバイスを頂きながら進めさせていきたいなと思っております。最後にトレイルランニングですね、立田山でございまして、健康をキーワードにする仕組みとしましては、江津湖の方でもよく皆さん走っていらっしゃると思いますので、その辺等も色々検討したいなというふうに考えております。ご意見ありがとうございます。

(菺茂会長)

はい、他には。

(甲斐委員)

岡村さんの意見に大賛成なんですけれども、特にこの3つのエリアというものは体育協会の会長的な立場から申し上げますと、ジョギングに大変いいコースなんです。それで、「レガシー」という言葉がありますよね。要するにこの緑化フェアをきっかけに新しい遺産、資産が残った。そういう観点からすると、それぞれのエリアにジョギングコースを花で誘導していくような、そんなことができないかと。熊本市内にこれからホテルがどんどん建ちますから、いわゆる宿泊客数が増えますから、そういう人たちのためにも熊本の魅力を、自分で汗を流すことによって感じて頂けるような、そういう仕組みを作って頂くとうれしいなと思っております。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。健康志向の高まりがすごく大きくなっていると思いますので、今ご意見頂きましたジョギングコースに花で彩る、緑で彩る、そういった仕組みについては是非検討させて頂きたいと思っております。

(菺茂会長)

是非、入れて下さい。

(桑原委員)

今までのご質問と重なる部分が多いかと思いますが、立田山のジョギングコース、登山とは違いますが、託麻三山では去年トレイルランコースを新たに市民のほうで作りました、イベントとして去年からやっておりますので、参加者が70代の方もたくさん参加されて、とても人気だったことを覚えています。そして、アン

ケートの中に興味のある情報や活動で参加したいものという問6に、「家庭で育てるコツ」とか「講習会・勉強会」についての関心が一番高いということに、とても関心した次第ですけれども、年代も60代・70代の方が多いということもあるのかもしれないけれども、こういう体験型のそして学びという部分は非常に大事な部分ではないのかなと思いました。そして、まち中エリアにはコンテストやいろいろなイベントが盛りだくさんなんですけれども、お花はやはりお野菜と一緒に入れ替わりがありますので一番いいときというものを写真のコンテストとして、フォトコンテストの写真展示などもイベントの中に入れて頂けると、天気が悪い日に周れないときにも、フォトコンテストを眺めるだけでも非常に幸せになって、また、学びにもなるのかなと思いますので、実際の生のコンテストとプラス、フォトコンテストがあるといいなと思います。そして、先ほどのキャンプのお話の中に、地震の後はキャンプのような生活をずいぶんしていましたけれども、今はそれだけ人気が出たということは非常に元気が戻って来ていいことだなというふうに思ったのと、正式な名称を忘れてしまいました。ネイチャーゲームのリーダー研修に参加した時に、夜中と日が出るもっとも早い時間、4時とか5時くらいに、山の中に一人一人10mおきくらいにぽつんぽつんと座って、山の音を聞くという体験を1時間くらいしたことがありますけれども、あの音はイノシシの足音かなとか、いろんな音を真夜中に、灯も何にもないところで体験したことが非常に印象的でした。子ども達が、立田山、まち山エリアでそういった体験もできると、ネイチャークラブもたくさんリーダーもいらっしゃいますし、いいのではないかなと思います。あの、ランダムになってしまいましたけれども、最後に先ほどの講習会、勉強会にちなんですけれども、手入れをするプロの専門家の方々の情報というものを市民の方たちは欲しいのではないかなと思います。どういうガーデナーがいるのかとか、どういう部分に得意な庭師さんがいるのかという情報が何かこの機会にわかって、身近な庭や樹木の手入れをする時に相談するというネットワークというような情報も欲しいなという風に思った次第です。すみません。ランダムですけれども以上です。

(葦茂会長) 多分、運営プログラムに参考になるようなご意見をたくさんいただけたので、今の項目を上げて、チェックして下さいね。大事だと思いますのでね。他にはございませんでしょうか。

(河島委員) 立田山の一つ一つのエリアは全部繋がって、歩いていけるようになっているコースになっているのかというのと、私、竜南中学校で遠足が立田山の頂上だったんですが、どこが頂上なのか私わからないんです。さっきから見ているんですけども。頂上はどの辺になるのかと、エリアが全部繋がっているのかと、もう一つはあまり駐車場がないんですね。立田山周辺にはちゃんとした大きな駐車場がないんですけども、こうなってくると東側と西側にも大きな駐車場が必要じゃないかと思うんですけども、その辺はどうお考えですか。

(事務局) まず、立田山の頂上に関するご意見ですが、大変申し訳ございません。南側エリアというのが右側でございます。その丸矢印が指してあるポイントが頂上になるところでございます。ただ、ここからの頂上の景色というのは全くと言ってはあれですが、何も眺望ができないという状況でございます。その右側で中央展望所というところで、また丸矢印で示してありますところが、南側の風景を江津湖まで望めるという展望所がございます。ちょうど頂上とあまり高さが変わらないようなところで展望があるというところでございます。各ポイントが繋がっているかというご意見でございますが、全て繋がっております。ただ、かなり起伏がございます。ただ、歩いてみると、すごく汗をかきますが運動になるかと思えます。最後に駐車場の問題ですが、委員の御指摘のとおりでございます。立田山については駐車場が少ないというのが実際のところでございますので、この辺今後の課題ではございますが、先ほどのシャトルバス等できちっとアナウンスをしっかりとやっていかないとけないというところが課題として考えております。

(葦茂会長) 他には、はいどうぞ。

(村上委員) 3会場の流れについては非常によくできていると思います。その中で、専門分野になりますけれども、資料の3-1の中にありますように下通り、シャワー通り、新市街アーケード内の立体花壇とかそういった花に関する樹木に関する花壇等につい

て、2ヶ月間の水管理、そういったものが非常に大変だと私は思っています。そういったところの対処・対応をどういうふうにされるのか、具体的にしておかないと、下通りあたりでの花壇が2、3本折れちゃって、しおれて枯れたら非常にカッコ悪いんです。ピンとしている状態で初めて生きた花壇の評価ができて、すばらしいなという感動を与えます。そういったことをしっかり市役所の方々考えて頂きたい。これは、僕は専門の方だったから、他の事はあまりわかりませんが、是非、しっかりと計画を立てて、あとは流れは僕はすごくいいと思います。

(事務局) ご意見ありがとうございます。私も先日、生産者の方の集まりのところに説明に行ったことがございますが、生産者の方からの声としましても、熊本の自慢の花を飾ってきたいというご意見を頂いているところでございます。花の管理等につきましては、吉村会長を含めまして、いろいろアドバイスを頂きながら進めさせて頂ければと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(菺茂会長) よろしいでしょうか。これに関しましては、小山さんがいらっしゃいましたので、先ほどの議題にちょっと戻って、ご挨拶頂いてテーマの説明をお願いしたいと思っております。

(小山氏) 遅くなって申し訳ございません。小山でございます。今回のこのテーマと愛称を考えて頂きたいとご依頼を受けまして、僕がまず考えたのが一つのイベントが開催されることにどうやって終わらせないようにするか、例えば2050年に生きてる人達が「熊本ってみんないいよね、なんでこんなに熊本の花の消費量がこんなに多いんだろう」とか、「普通の暮らしの中に緑がたくさんあるんだろう」とか、学校で先生が子ども達に「なぜか分かる人」と言ったときに、「はい」と誰か手を挙げて、2022年にこういう万博が開催されました。あれがきっかけで大きく熊本は変わったんです。東京オリンピックが1964年開催されて、いろんなインフラが整って東京が発展したのと同じように、花のある暮らし、緑のある暮らしのきっかけを2022年につくるということが僕は一番のこの大会を熊本で開催する価値かなと考えました。なので、人を沢山呼ぶためのワードというよりは、熊本に暮らしている人たちの心に響く自分ごとにしていただく。そういうワードになったらいいかなと思えまして、それで、考えてるうちにいろんな想いがあふれてきたので、10個くらい開催テーマは考えました。それぞれは読んで頂いた通りなんですけど、どれが一番しっくりくるかなと皆さんと共に話しできたらいいかなと思っております。愛称に関しましては、例えば広島は「はなえみ」とかこういう愛称をつけてますけど、僕はもっとオーソドックスでオフィシャル感がある、日本全体が注目してるんだというようなネーミングにした方が熊本の人たちがその気になってくれるのかなと思え、あえて堅いというか、ありふれたといいますが、オフィシャル感があるような愛称にした方がいいかなと思え、エキスポとかサミットとかフェスという言葉も、水と緑の未来博とか、そういうものをあえて考えてみました。これも皆さまと検討できたらいいかなと思っております。

(菺茂会長) 今、お話の通りでございます。今日はこれ一つに決めるということではしませんので、ご意見をたくさんいただきたいというのが今日の会議の趣旨でございます。それを踏まえて次回にある程度絞ってご提案をして、お諮りしたいということでございますから、自由にご発言していただけたらと思います。馬場先生いかがですか？

(馬場委員) 小山さんのお話を聞いてちょっと嬉しくなりました。人を呼ぶイベントなんだけれども、熊本に暮らしている人は自分事として、未来の熊本像ができていくというお話、私もうれしいなと思って聞いていました。長野に行って見させていただいたときに専門家の方たちの作品がとてすばらしく、すごく感動したんですけど、そこに、飾ってある場所はメインではなかったんですけど、例えば若い人たち専門学校生とか学生さんとか、すごい創造力たくましく庭をつくっていたり、花壇をつくっていたりというところに私はすごく感動して帰ってきたんです。この取り組みは、今の小学生が2030年には、もう社会の中心となって社会をつくっていく子供たちなんですけど、そういう未来につないでいくようなフレーズになったら嬉しいなとお話を聞いて思っています。

- (藤田委員) ご提案いただきありがとうございます。前回のくまもと都市緑化フェアがグリーンピックくまもとという名称で、その時私は子どもだったんですけど、今でもそれを覚えているくらい分かりやすく、かっこよくなって、それが実際動植物園で行われていて、そこに行った記憶も残っているように、考えるのは大人ですけど、子ども達の記憶の中にもするっと入って行って定着するような愛称というのが重要なんじゃないかなと思っています。ですので、エキスポとか博覧会、フェス、サミット、未来博というような短いけれども意味がわかって覚えやすいというところに着眼して頂けたのが非常に嬉しいなと思いました。
- (小山氏) 実は今回グリーンピックをまた使った方がいいんじゃないかなと思ったんですけど、よくこれ使えたなと思ったら今はダメだそうです。オリンピック委員会が許さないらしくて、当時はまだそのへんが緩かったはずなんですね。だからするっとつけた。今はもうダメなんだといわれましたので。だからグリーンピックはあきらめました。
- (桑原委員) ゆっくり読ませていただいて、どれもとても幸せな気持ちになるテーマだなと思って、読んでいて幸せになりました。特に⑥番の幸せの深呼吸という言葉などはそこでしか味わえない空気というか、景色というものがじんわり体に入ってくるようなイメージがして、いい表現だなと思いました。⑩番にしても今おっしゃった未来への伝言ということで、なるほど、こういう表現もあって素晴らしいなと思いながら読ませていただきました。そして一つ質問なんですけれども、愛称の最後のくまもとMMMこのM3つを教えて頂けたらなと。
- (小山氏) これ水と緑と未来です。短くというのが愛称としてはいいかなと思ひまして。
- (桑原委員) わかりました。ありがとうございます。
- (矢田委員) 今、お話を伺いまして、かなり未来について語ってらっしゃるところ、未来から振り返ると言葉もありましたのでサンプルの10分の6にある未来という言葉が入ったらいいかなというのが私の感想です。もう一つは観光連盟という立場で、人を呼び自分ごとというご表現がございましたので、熊本県内の45市町村がぐるぐる回っても観光かなと思いましたので、人を呼ぶとともにさらに自分ごとにもなったらいいかなと思った次第です。
- (小山氏) 自分で自分をアピールしすぎると引くと思うんですよね。その時にものすごく絶対うちはいいよと言うのではなくて、自分たちがものすごく楽しんでいたらきっと他の人が来なくなるっていう、天の岩戸スタイルですね。天の岩戸スタイルの方がいいかないつも思っていたので、ついそう言ったのですが、もちろん外からも来ていただいた方が、来ていただくように、頑張らなければいけないと考えています。
- (菱茂会長) 自分のましが自慢できなくて人が来るわけじゃないかとそういうことですね。
- (岡村委員) 先ほど松田委員の方からインバウンド、海外からお客さんをここに呼びたいというような話もありましたので、愛称のところでこのエキスポとかグリーンサミットみたいな愛称だとデザインとか、インバウンドとかの海外からのお客様にも訴えかけやすいのもあります。そのへんをおさらいというか、思いましたので意見させていただきました。
- (甲斐委員) 流れとしてご認識して頂きたいのは、大西さんから語られませんが、くまもとの創造的復興に向けて今色々な投資事業を考えているところなんです。それで創造的復興に向けた有効な情報発信の機能と未来に向けた有効な活動促進、交流促進といったような観点でこの緑化フェアは位置づけられると思うんです。というのは来年アジア太平洋水サミットが熊本で開催されます。アジアに向けて熊本の地下水を発信していきたいわけですね。それを受けて交通拠点の整備が進んで22年には熊本空港新空港がある程度見えてくるわけですね。そうしますと、そのような環境の中で、この緑化フェアをどのように位置づけるかというようなことで、やっぱり水と緑が連携した構図で情報発信するというのが非常に大事じゃないかなと思います。そういう意味で言うと、小山さんはそういう観点でテーマ設定していただき非常に有難いと思いますし、それと愛称についてオフィシャルに発信できるようにした方がいいんじゃないかということでしたが私もそう思います。ですからぜひ創造的復興に向けて、この緑化フェアがさらにその次のステップに進んでいくようなそういうメッセージが込められたらいいなと思っております。

- (菘茂会長) 他にご発言のある方は、よろしいですか。それではこの件の案についてはもう一度皆さんじっくりとお読み頂きたいと思えます。ところでこの2022でいいんですか？2021と言われていないですか？
- (事務局) 国土交通省の方に確認をしましたところ、問題ないということでございました。
- (菘茂会長) 分かりました。開催年でいいということね。年度の事業なもんですからね。2022の方が数字はいいね。感じはいい。それでは時間も過ぎていきますので、4番を簡単に説明してもらいますか。
- (事務局) ~資料4の説明~
- (菘茂会長) ご承知の通りネオグリーンプロジェクトは緑化フェアを一過性にしないために、前と後ろで続けていこうという事です。それにあたっていくつかのメニューを作って、高校生に花壇を作ってもらおうとか、あるいは個人や企業等に、いろんなことをやってもらおうというところがございます。何かご意見がございましたら。多分これは、どんどん増えていくんじゃないかと思えますけど。何かありませんか。よろしいですかね。お気づきになったらまた事務局のほうへご連絡をいただけたら幸いです。ちょっと時間が伸びてしまいましたけれども、以上で本日の議題は、あとその他ですね。
- (事務局) 事務局から一点だけご報告がございます。第3回目の委員会のご報告でございますが、11月19日の午後になります。同じ予算決算委員会室、この場所で行いたいと思えます。宜しくお願いいたします。
- (菘茂会長) それではマイクを事務局にお返しいたします。事務局お願いします。
- (事務局) 菘茂会長ありがとうございました。今申しました通り、次回につきましては改めて委員の皆様にご案内をさせていただきますので、宜しくお願い致します。最後になりますが、田中都市建築局長より閉会のご挨拶をさせていただきます。
- (都市建設局長) 都市建設局の田中でございます。本日は誠にありがとうございます。菘茂会長をはじめ各委員の皆様方、大変お忙しい中、ご出席頂きまして、多様な意見を頂きまして今後詰めさせていただきたいと思えます。また、アドバイザーにご就任いただきました小山様におかれましては、本日委員会のほうにもご出席いただきまして、ご説明もいただき本当に感謝申し上げる次第でございます。今後ともぜひ、よろしくお願いしたいと思います。本日の冒頭、市長のほうから挨拶の中であったように45市町村の方々にも一緒に取組んでいただくという事になりました。それこそオール熊本で、この緑化フェア、まだ愛称は決まっていますが、緑化フェアを盛り上げていかなければならないというふうに思っております。オール熊本という意味では、さきほどのネオグリーンでもありましたようにこの緑化フェア、単にパビリオン形式で来ていただくだけでなく、市民の皆様、企業の皆様、地域の皆様と一緒にですね、作り上げていってそれを後世に残していくというふうなものでございまして、委員の中から話があったようにレガシーという点では当然ながら前回のグリーンピックでは植物園ですね。それがレガシーというんですかね、それが残っております。今回も先程あったようにジョギングコース検討させていただきますが、というものもハード面として残していくものそれと市民運動ですね。そういうものもレガシーとして、きちんと緑化フェアで小山さんもあったように2050年に何で熊本はというようなご紹介もあったような熊本の緑化活動に今後繋がれば良いというふうに考えているところでございます。外国人というご意見もございました。ロゴに対してはそういうご意見もあったんですけども、やはり我々この緑化フェア、地震からの復興を全世界にアピールするという目的も非常に持っておりますので、そういう意味では外国人をターゲットとしたちゃんとしたシンボルマークそういうものにも配慮していきたいというふうな考えでございます。今日、多様な意見、多岐に渡る意見を頂きまして事務局としましては、後ろのほうは悩んでいるかもしれませんが、次回11月19日までには、きちんと取りまとめた上で。また交通アクセス等については、実質的には実施計画の中で示していく事になると思えますけどもちゃんと引き続いて取り組んでまいりますので、今後ともぜひ宜しくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。

(司会) 以上をもちまして、第2回全国都市緑化くまもとフェア基本計画検討委員会を閉会いたします。委員の皆様方におかれましては長時間にわたるご審議を賜り大変ありがとうございました。